



人類に
奉仕する
ロータリー

パワー浜松ロータリークラブ週報

クラブテーマ: 全員参加で、奉仕の理想を実現しよう!

パワー浜松ロータリークラブ (2016-17年度 会長: 近藤 雅彦 幹事: 田淵 邦彦)
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松 4307 号室
Tel: 053-452-0800 Email: info@power-hamamatsurc.jp
http://www.power-hamamatsurc.jp

創立: 2002年10月22日 認証伝達式: 2003年4月29日 スポンサークラブ: 浜松中RC

第675回例会 5月27日

創立15周年記念例会

〈出席報告〉

会員数 79名(内 出席免除会員1名)

出席数 66名 出席率 82.5%

前々回出席率 64.10%

■会長挨拶



近藤雅彦会長



国際ロータリー2620 地区パストガバナー 中野哲男様

■来賓祝辞



浜松市長 鈴木康友様



浜松中ロータリークラブ会長 半場幸治様



国際ロータリー第2620地区ガバナー 生子哲男様



パワー浜松ロータリークラブ拡大委員 中村智次様

■記念事業報告 高貝亮会員

浜松市立東小学校の100周年記念植樹事業について説明致します。東小学校の校区にある八幡神社の東には、「ざざんざの松」と呼ばれる枝振りの良い松が30本ほど群生していました。室町幕府の足利義教将軍がこの松の下で宴を催し「浜松の音は、ザザンザ」と歌を詠まれたことから、「ざざんざの松」と呼ばれるようになり、東小学校の校歌にも出ています。当クラブは「松で育てる街づくり」という事業の一環として、「ざざんざの松」にちなんだ松の植樹を実施しました。遅しく育つ松になぞらえて子供たちの健やかな成長を願うとともに、「ざざんざの松」のエピソードから浜松の歴史を感じてもらふこと、そして何より小学校との接点を持ち、奉仕の機会を広げることがこの事業の目的でした。そのため記念植樹の実施だけでなく、正木先生の松についての授業も実施しました。5月17日の植樹当日には、記念式典を行い、子供たちの発表の時間も持ちました。当日の植樹は、中日や静岡新聞でも報道されましたし、FMハローでもご紹介いただけるそうです。以上、報告させて頂きました。

小澤邦比呂会員



防潮堤の植栽事業を説明致します。昨年12月4日、防潮堤120メートルの中に計240本の黒松を植えました。当日は、児童養護施設、清明寮の子供たちも含め、総勢92名の皆様にご参加いただきました。この事業は、ロータリーが支援しています米山奨学生や、行政機関、地区団体、企業、学校、一般市民の方々を巻き込んで、地域の絆、体制づくり、地域資源の掘り起こしに少しでもご支援ができ、メンバー全員参加で継続して行うことのできる、地域づくり、人づくり事業です。この「松で育てる地域づくり、人づくり事業」は未来夢計画事業としても想いを乗せてスタートしました。基本思想は、1. 地域の文化再生活動に

つながる 2. 地域と一体となって幅広い奉仕活動が可能である 3. 道徳心や地域の心の教育活動に繋がる 4. 土に触れ合い松の成長と自らの成長を重ねて見る事ができる、であります。オール浜松沿岸域防潮堤整備促進事業でのご支援もあり、次年度の継続事業となりました。今年の11月26日に第二弾を計画しています。植栽当日、大変嬉しいことがありました。米山記念事業を育った学友が駆けつけてくれたことです。次期学友会会長のラシードさんは、山梨からご家族で駆けつけてくれました。ロータリーに恩返ししようと言う思いを持ってくれています。彼らは、ロータリアンにとっても大切なものを届けてくれています。本当に感謝を致しております。しかし、ロータリークラブも創立当時とは少し様変わりしていると思います。ロータリークラブの存在、活動が色褪せてきている様に感じます。そんな中、夢計画事業がございませぬ。本来、それぞれのクラブが、自らの資金で、そこに集うメンバーが創造企画し、夢や思いを乗せクラブ独自の奉仕事業を推し進めるべきであります。現在、メンバーだけが楽しめば良いというような内向きの事業となり、奉仕の精神が忘れられて活性していないのが実情ではないでしょうか。今回の植栽事業を通じて、感じた事ではありますが、ロータリーは例会や事業を通じて、人格を磨く道場の場でもあると捉えるならば、か弱いものに寄り添う事が必要だと行動を起こす団体であるならば、その精神を世の中のために良いことをしていく団体、企業、あらゆる方に伝えていくべきではないでしょうか。マザーテレサの言葉に、「私たちは大きな事はできません。小さな事を大きな愛で行うだけです。」と言うものがあります。まさに、この言葉は、奉仕の原点でロータリアンが本気で受け止めなければならないと思います。大正時代の社会教育家の後藤氏の言葉に「本気ですれば、大抵のことはできる、本気ですれば何でも面白い、本気でしていると誰かが助けてくれる。人を幸せにするために本気で働いているものは、皆んな幸せである。」人としての人生に道しるべである。感謝、奉仕の心は、人間だけに与えられた賜物です。どうでしょうか、ここにいる者が本気でことに当たるなら、仲間が助けてくれる。今一度原点に帰り、ロータリーに向き合う姿勢を考え直したいと思いません。貴重な時間をお借りし、報告と致します。

■懇親会

